

2018 年度 教育学研究室・教職研究室 活動報告

1. 教員組織

教育学研究室及び教職研究室では、各校舎に開設されている教職課程の教育とともに、湘南校舎及び清水校舎に開設されている社会教育主事課程の教育を担当している（なお、社会教育主事課程の授業科目の一部は、学芸員課程と司書課程の授業科目としても位置づけられている）。2018 年度には、以下の 19 名の専任・特任教員（教育学研究室所属教員 12 名、教職研究室所属教員 7 名）がこれらの課程の教育を担当した。

〈教育学研究室〉

- ・湘南校舎：朝倉徹（教授・課程資格教育センター所長）、大島宏（教授・教育学研究室及び教職研究室主任）、稲垣智則（准教授）、古里貴士（講師）、関口洋美（特任准教授）
- ・札幌校舎：塚本智宏（教授・札幌分室長）、池田裕子（准教授）、南場行広（特任教授）
- ・清水校舎：小林俊行（教授・清水分室長）、杉本寿久（特任教授）
- ・熊本校舎：山下雅彦（教授・九州分室長）、瀧本知加（講師）

〈教職研究室〉

- ・湘南校舎：前田善仁（准教授）、藤井大亮（講師）、荒木高司（特任教授）、佐藤陽一（特任教授）、山川勝久（特任教授）、斉藤仁一郎（特任講師）、高梨宏子（特任助教）

2. 教職課程履修者の状況

2-1 履修状況

教育実習事前指導の受講者数（主に 3 年次生）は、全校舎の合計で 605 人であった。

- ・札幌校舎：39 人（3 年次生 39 人）
- ・湘南校舎：517 人（3 年次生 510 人、4 年次生 5 人、科目等履修生・大学院生 2 人）
- ・清水校舎：17 人（3 年次生 17 人）
- ・熊本校舎：32 人（3 年次生 32 人）

教職課程全体を省察する科目として開設されている教職実践演習の履修者（主に 4 年次生）は、全校舎の合計で 610 人であった。

- ・札幌校舎：38 人（4 年次生 36 人、科目等履修生・大学院生 2 人）
- ・湘南校舎：518 人（4 年次生 500 人、科目等履修生・大学院生 8 人）
- ・清水校舎：21 人（4 年次生 21 人）
- ・熊本校舎：33 人（4 年次生 33 人）

2-2 教員免許状の取得状況

2018 年度 中学校・高等学校教員免許状取得者数（一括申請）

	中学校		高等学校		免許状取得者（実数）	
	一種	専修	一種	専修	一種	専修
札幌校舎	35	0	38	0	36	0
湘南校舎	444	10	495	11	491	11
伊勢原校舎			0		0	
清水校舎	19	1	23	1	23	1
熊本・阿蘇校舎	2	0	38	0	33	0
合計	500	11	594	12	583	12

2018 年度に一括申請により中学校及び高等学校教員免許状の取得を申請した学生は、全校舎の合計で 595 人（実数）であった。各校舎の免許状取得状況は表「2018 年度 中学校・高等学校教員免許状取得者数（一括申請）」のとおりである。これにくわえて、2018 年度は、2015 年度から看護学科に開設されている養護教諭の教職課程において、最初の養護教諭免許状取得者 8 人を輩出した。

2-3 教員採用試験大学推薦特別選考への対応

2018 年度実施の教員採用試験大学推薦特別選考では、本学に対し 11 件の推薦依頼があった（神奈川県、川崎市、相模原市、横浜市、埼玉県、千葉県・千葉市、大阪府、堺市、大阪府豊能地区、京都府、京都市）。これをうけ、学内選考を実施し、川崎市 2 人（数学、理科各 1 人）、相模原市 4 人（国語、数学、音楽、保健体育各 1 人）、横浜市 4 人（数学、理科各 2 人）、千葉県・千葉市 1 名（数学）、京都府 1 名（理科）の学生を推薦した。その結果、川崎市 1 人（数学）、相模原市 1 人（保健体育）、横浜市 2 人（数学、理科各 1 人）が合格し、採用された。

3. 教職課程の充実への取り組み

3-1 教職課程の再課程認定への対応

教育職員免許法及び同法施行規則の改正に伴い、2018 年 4 月に教職課程の再課程認定を申請し、2019 年 1 月 25 日付で認定を受けた。これにより、2019 年度入学者からは新たなカリキュラムによる教職課程が実施されることとなった。

3-2 教職課程のファカルティ・ディベロップメント（FD）

2019 年 3 月 11 日（月）には教職課程全国会議を開催し、各校舎の教職課程運営に関する情報の共有や意見交換のほか、2018 年度に実施された教職課程の再課程認定と認定後の対応などについて検討・協議した。

このほか、湘南校舎では、2019 年 3 月 1 日（金）に教職課程担当者による全体会議を開催し、再課程認定後の新たなカリキュラムや留意点の説明や、次年度に向けての情報共有、意見交換などを行った（出席者 35 人）。

3-2 各校舎の取り組み

札幌校舎では 3 年次以降、学科間の交流を活発にすると同時に、教育現場に触れる機会をより多くして多様な経験を積めるようにサポートしている。2018 年度には、教育実習事前指導として、付属札幌高等学校の協力により授業見学を行った。ボランティアとしては、北海道教育委員会からの説明会を設けて、主に夏季集中での各地学校ボランティアに希望者を派遣斡旋した。このほか教職課程としてではないものの、札幌キャンパスと札幌市教育委員会との提携事業の一環として、学校でのボランティアに教職課程履修者を含む学生を派遣した。

湘南校舎では、神奈川県秦野市教育委員会と教科学習支援員派遣制度に関する覚書を締結し、2013 年度から秦野市の小中学校に学生を派遣している。2018 年度は湘南校舎の学生 50 人（2 年次生 5 人、3 年次生 45 人）が派遣された。なお、2019 年 3 月 29 日（金）には、2019 年度の教科学習支援員制度の実施に向けて、秦野市教育委員会担当者と 2018 年度の活動状況や課題について意見交換を行った。近隣自治体との連携という点では、2018 年 7 月 17 日（火）に、秦野市・平塚市の協定中学校での実習に係る教育実習報告会を開催した。中学校及び教育委員会の代表と湘南校舎の教員の出席の下、2018 年度の協定中学校における教育実習の状況や課題を共有するとともに、意見交換を行った。このほか、課外のプログラムとして、7 月 4 日（水）に『『中等教育学校』とは何だろう!』（講師：大河原広行・神奈川県立相模原中等教育学校教頭）、11 月 26 日（月）に『学級づくりに役立つ特別活動』（講師：今井良男・元平塚市立中学校校長）をテーマとして、教職教養講座を開催した。

清水校舎では、静岡市立清水三保第二小学校でのクラブ活動において、月 1 回程度、学生による科学実験を行った。また、清水教養教育センター主催のサイエンスワールドにおいて、教職課程を履修している学生が学生ボランティアの中心となって、運営の補助を行った。このほか、週 1 回、希望者が付属静岡翔洋小学校において理科の授業参観を行った。